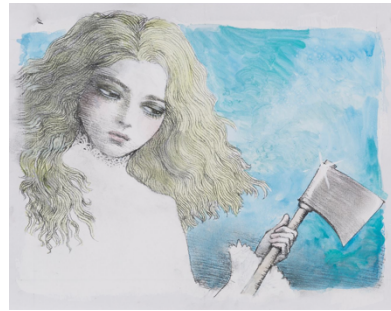


Press Release 2024.01.31

宇野亞喜良展 AQUIRAX UNO



演劇実験室◎天井棧敷公演『星の王子さま』ポスター 1968/右上:『きんのおの』原画 2017/右下:『三井信託銀行』ポスター 1971
リリース内画像は全て©AQUIRAX

うのあきら

日本を代表するイラストレーター、グラフィックデザイナーとして活躍を続ける宇野亞喜良(1934-)。1960年代の日本において「イラストレーション」「イラストレーター」という言葉を広め、時代を牽引してきたレジェンドでありながら、常に進化し続けています。その創作は、イラストレーション、ポスター、絵本、書籍、アニメーション映画、絵画、舞台美術など多岐におよび、1950年代初めのデビュー以来、活動の範囲は限りなく広がっています。

本展は、宇野の初期から最新作までの全仕事を網羅する、過去最大規模の展覧会です。1950年代の企業広告をはじめ、1960年代のアングラ演劇ポスターや絵本や児童書、近年の俳句と少女をテーマとした絵画など、多彩で貴重な原画や資料等を紹介します。

「魅惑のサウスポー」から生み出される、時代を超越した宇野の華麗で耽美な創作世界に迫ります。

【開催概要】

展覧会名 宇野亞喜良展 AQUIRAX UNO
 会期 2024年4月11日[木]-6月16日[日] *58日間 *プレスプレビュー 4月10日[水]
 会場 東京オペラシティ アートギャラリー
 開館時間 11:00 - 19:00 (入場は18:30まで)
 休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
 入場料 一般1,400 [1,200]円/大・高生800 [600]円/中学生以下無料
 主催 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団、朝日新聞社
 協賛 ジャパンリアルエステイト投資法人
 特別協力 刈谷市美術館
 お問い合わせ 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

*同時開催「収蔵品展 079 特別展示 没後50年 難波田史男」、「project N 94 大城夏紀」の入場料を含みます。

* [] 内は各種割引料金。

*障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。

*割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

■本展覧会に関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】瀧上華 【広報】市川靖子、吉田明子
 Tel: 03-5353-0756 / Fax: 03-5353-0776 / Email: ag-press@toccf.com

【本展の見どころ】

出品点数 900 点超、史上最大規模のスケールで宇野亞喜良の全仕事を展開

宇野の仕事を振り返る大型個展は、2010年刈谷市美術館で開催されて以来14年ぶり、東京では初めて開催します。本展は、刈谷市美術館での個展よりもさらに出品点数を増やし、900点を超える作品群によって膨大な宇野の仕事の全貌を紹介します。

繊細で華麗な原画を多数展示

本展では、宇野による原画を多数展示します。宇野の確かな描写力を感じさせる繊細で華麗なデッサンや、校正紙に書き込まれた細やかな指示にみられるデザインへのこだわりなど、直に見ることができます。

空間を贅沢に使ったポスター展示

1960年代の初期から現在にいたるまで宇野が手掛けたポスターを一堂に展示します。1960年代当時の時代の空気を体感できるよう、蛍光塗料が施されたポスターをブラックライトの光で鑑賞できるコーナーも設置予定です。

Project Nyx「星の王子さま」などの舞台美術を紹介

宇野が描いた舞台や衣装の原画、実際に制作にも携わった大道具や小道具、人形、衣装など、これまであまり展示する機会がなかった、宇野の手掛けた舞台美術をまとめたかたちで紹介いたします。



左：演劇実験室◎天井桟敷第5回公演『新编版千一夜物語』ポスター 1968 / 右「Keiko's (ケイコの店)」ポスター 1967

【展示構成】

宇野の幅広い仕事を、12のトピックでジャンルごとに紹介します。

1 プロローグ 名古屋時代

学生時代に描いたスケッチやクロッキーなど、創作初期の作品を紹介します。宇野は、毎日新聞社主催のデザインコンペで入選を重ね、19歳でグラフィックデザイナーの登竜門だった日本宣伝美術会（日宣美）で入選を果たすなど、早くからデザイナーとしての才能を開花させていました。



2 グラフィックデザイナー 宇野亞喜良

上京後、宇野はグラフィックデザイナーとして華々しい躍進を始めます。和田誠とともに一等を獲得した興和新薬の蛙のイラストレーションや、カルピス食品工業の新聞広告などの貴重な原画を紹介します。

「カルピス」（カルピス食品工業）広告原画 1956頃 刈谷市美術館蔵

3 企業広告

宇野は数々の広告制作の現場に携わりました。所属していた日本デザインセンターでは、東芝やトヨタ自動車などの企業広告を担当。旭化成工業「カシミロン」を題材とするポスターは第10回日宣美展で会員賞を受賞しました。また、化粧品会社マックスファクターの広告シリーズも手掛けています。

左：「スタジオRe」ポスター 1965

右：「Renaissance Collection」（マックスファクター）ポスター 1965頃 刈谷市美術館蔵



4 アニメーション映画

1960年代、宇野は『白い祭』、『お前とわたし』、『^{ドン}牛砲』という3本の短編アニメーション映画を発表しています。本展では、それら3本のアニメ作品を全て上映します。

5 ポスター

宇野は、現在に至るまで膨大な数のポスターを手掛けています。豊富な印刷知識と描写力が十分に発揮された、独特のファンタジーやエレガンス、エロティシズムが漂う宇野らしい世界観を感じられるポスターを一挙に展示します。



「ミケランジェロの言葉」ポスター 1968



6 絵本・児童書

現在までに宇野は、70冊余りの絵本を手掛け、多くの児童書にも携わっています。『どうぶつ えとおはなし』（1957年頃）や『青い鳥』（1957年頃）、横尾忠則と企画した『海の小娘』（1962年）、今江祥智との『あのこ』（1966年）など、愛らしい動物から大人びた少女まで、物語や著作によって自由自在に画法を変え、バリエーション豊かな絵本や児童書を生み出しています。

『あのこ』原画 1966

7 版画集・作品集

1970年代から80年代にかけて、過去の様式を求めるクライアントの仕事に辟易し、制作活動をセーブしていた宇野は、自分の表現スタイルをあらためて見直すための版画集や作品集を出版しました。この頃の作品は、輪郭線を活かしつつ淡く着彩された裸婦像など、リアリティーのある肉体表現を特徴とし、独特のエロティシズムを感じさせます。

8 新聞・雑誌

新聞や雑誌の仕事は長期に携わっており、膨大な数、そしてエロスからメルヘンにいたるまで表現の幅が広いジャンルです。記事の内容、著者の嗜好、印刷の仕様などにも目配りし作風や画材を使い分ける柔軟性によって、振幅のあるイラストレーションが作り出されています。

左：『母の友』（1964年9月号）表紙原画 1964 刈谷市美術館蔵

右：『活路』『週刊現代』（1994年7月30日号）原画 1994 刈谷市美術館蔵



9 書籍

1960年代から現在にいたるまで、宇野は書籍の装幀も数多く手掛けています。グラフィックデザイナー出身の宇野にとって、書籍の仕事はイラストレーションに加えて、造本や装幀のおもしろさを体感できる表現領域であり、本という存在を好む宇野にとっては、飽くことなく創作意欲がかき立てられる場といえます。



左：「ことわざはお好き？」『恋する魔女 (For Ladies)』口絵原画 1966

中：「パレード＝桜の木と話した」『はだしの恋唄 (For Ladies)』原画 1967 刈谷市美術館蔵

右：「幸福についての七つの詩」『ひとりぼっちのあなたに (For Ladies)』原画 1965 刈谷市美術館蔵



10 絵画・立体作品

1987年の個展を機に、展示空間を作るおもしろさを実感した宇野は、現在に至るまで毎回テーマを決めて個展を開催しています。クライアントのある仕事とは異なり、個展はモチーフや表現スタイルに制約されることがなく、自分ですべて決められる自由さが醍醐味と宇野は言います。2000年代には、石粉粘土で制作した人型のオブジェも制作しています。《餃子姫》 2013



11 舞台美術

宇野は、舞台装置や衣装、メイク、演出や脚本に至るまで、演劇全体の総合的なプロデュースも行っています。特に1990年代以降は、集中的に演劇舞台に携わるようになりました。宇野が手がける舞台美術は、二次元の平面で見ていた宇野の世界がそのまま空間にあらわれるかのような魅力を放っています。

左：Project Nyx『第4回公演 星の王子さま』衣装原画 2009

右：Project Nyx『第4回公演 星の王子さま』舞台原画 2009

12 近作・新作

俳句に親しみ「左亭」の俳号を持つ宇野は、近年、松尾芭蕉や寺山修司らが詠んだ句をテーマとした新作を描き続けています。また、SHAKALABBITSや、BUCK-TICK、椎名林檎らのポスターやグッズ、さらに資生堂「マジョリカ マジョルカ」の似顔絵ジェネレーター「マジョリ画」（2016年）など、さまざまなクリエイターや企業と活発にコラボレーションするなど、宇野の描き出す世界は現在でも幅広い世代やジャンルの人々から支持を得、創作の勢いは留まることはありません。



《龍の落とし子》2020

【作家略歴】



photo: 大童鉄平

宇野亞喜良 うの・あきら

イラストレーター・グラフィックデザイナー

1934年愛知県名古屋市生まれ。名古屋市立工芸高等学校図案科卒業。
1955年上京。カルピス食品工業、日本デザインセンター、スタジオ・イルフィル、スタジオ Re を経てフリーランス。
1950年代から企業広告や演劇ポスター、絵本を手がけるようになり、鬼才のイラストレーターとして活動を開始。1960年代末には演劇実験室・天井棧敷などのアングラ演劇ポスターや舞台美術を担当するなど、一躍時代の寵児として脚光を浴びる。1990年代からは展覧会のキュレーションや舞台の美術監督を務め、近年は俳句とのコラボレーション作を発表するなど、現在も多彩な分野で活躍。

主な著作に、『宇野亞喜良マスカレード』（美術出版社、1982年）、『薔薇の記憶』（東京書籍、2000年）、『奥の横道』（幻戯書房、2009年）、『宇野亞喜良クロニクル』（グラフィック社、2014年）。
絵本に『あのこと』（文・今江祥智、理論社、1966年）、『ぼくはへいたろう』（文・小沢正、福音館書店、1994年）、『マイマイとナイナイ』（文・皆川博子、岩崎書店、2011年）などがある。刈谷市美術館、Bunkamura ギャラリー、ギンザ・グラフィック・ギャラリーほか、個展多数。

1956年日宣美展特選、1960年日宣美展会員賞、1982年講談社出版文化さしえ賞、1989年サンリオ美術賞、1992年赤い鳥さし絵賞、2008年日本絵本賞、2013年全広連日本宣伝賞山名賞、2015年読売演劇大賞選考委員特別賞等を受賞。

1999年紫綬褒章、2010年旭日小綬章受章。